

# 新編 知立市史だより

第1号



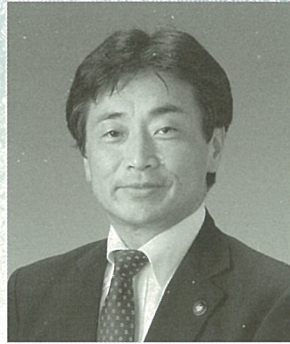
昭和45年12月1日に知立町から知立市となりました。

写真上は知立中学校前、下は駅前風景



## 新編知立市史編さんについて

知立市史編さん委員会 会長 林 郁夫



私達の知立市は、周囲約4キロ四方の小さな市ですが、主要国道、県道、名鉄本線、三河線が交差する古くからの交通の要衝です。平成13年に生涯学習都市宣言、22年には知立市平和都市宣言を行い、穏やかで文化を愛する市

を目指しています。

古代に於いては、八橋が伊勢物語の歌枕うたまくらとして有名となり、江戸時代には宿場町として栄えました。また、格式ある知立神社に奉納される「知立まつり」の文楽・からくりは、国の民俗文化財として指定されるなど、歴史と伝統に支えられる町でもあります。

かつて知立町誌・知立市史が刊行されましたが、その後市の様相も変貌し、人も変わっています。昔の町並みや人々の暮らしを知る人も少なくなってきました。私達は未来を目指して今日を生きていますが、より良い未来を目指すためには過去を知らねばなりません。そのために新編市史編さん事業が立ち上がりました。

今後、事務局をはじめ編集委員などが調査のために皆様のもとへ赴くこととなります。どうか、市史編さんにあたったかのご理解・ご支援をお願いします。  
(知立市長)

## 『新編知立市史』の編集を任されて

編集委員会 代表 西宮 秀紀



まず個人的な話から始めることをお許しいただきたい。私は1987年に愛知教育大学に赴任し、知立駅を起点にバスで大学に通っていた。その間知立神社や祭り・東海道・八橋など多くの文化財や旧跡に寄り道をしたりしていた。

車通勤になってからは、知立に立ち寄る機会は少なくなってしまうが、大学教員としての第一歩を踏み出した頃の思い出につながる。知立市の市史編さんに携わることができ、とても幸せに思っている。

現在、地方自治体は、どこも財政難で、そのような中、市史編さん事業に踏み切られた市長の英断に敬意を表したい。その意味で編集委員一同、責任の重さを痛感している。市の歴史は、市民がこれまで脈々と築いてきた生活・文化・記憶の固まりでもある。自分の住んでいる地域の歴史を知りたいと思うのは、人間の基本的な欲望であろう。

当時最新であった旧市史刊行から約30年、その間知立市も大きく変わったし、新資料の発見や発掘なども進んだ。それらを記録して次世代に伝えねばならない。これから10年という長丁場の仕事であり、市民の方々のご協力・ご支援をお願いしたい。

(愛知教育大学教授)



## 新編知立市史編さんについて

昭和54年に知立市史下巻が刊行されて以来約30年が経過し、その間発掘調査が行われるなど新たに資料が見つかりましたが、戦時中のことなど昔のことを知る人は少なくなりました。また、昨今重大な課題となってきた自然環境については、今まで本格的な調査が行われてきませんでした。

そこで、先回の市史刊行以降に見えられた資料を整理し、聞き取り調査や観測・調査を行い、新編知立市史編さん事業を行うこととなりました。

### 《基本方針》

- 1 近年の学問的水準が反映されるよう学界の研究成果を広く取り入れる。
- 2 資料調査は市民の理解と協力を得るとともに、関係市町村と密接な連携を保ち、市内外にわたって広範囲に行うものとする。
- 3 広く市民に親しまれ活用できるような平易な文章で記述するとともに、斬新なレイアウトで写真・図版を多く取り入れる。
- 4 収集資料は、情報をデジタル化しデータベースを構築する。
- 5 市民への情報提供は印刷物による方法だけでなく、原資料の保存のためにもデジタルデータを積極的に活用する。

- 6 収集した資料は情報倫理に基づいた公開制度を取り、市民の利用に供するものとする。

### 《編さんの組織》

編さん委員会、編集委員会、各専門部会の三つの組織で編さん事業は進められており、現在約50名の方のご協力をいただいています。

▽編さん委員会…編さん事業の最高決定機関。

市長を会長とし、副市長・教育長・市議会議員・各種団体代表などで構成されます。

▽編集委員会…刊行に関する諸問題を検討する機関。

顧問と各部会の会長で構成されます。

▽部 会…調査の実施・執筆を行う機関。

考古・古代中世・近世・近現代・民俗・自然の六部会で構成され、各部会は部会長のほか、調査執筆委員・調査協力員がおかれます。

▽事務局…平成20年度より生涯学習課文化係(歴史民俗資料館)に市史担当がおかれ、現在は二階市史編さん事務局にて業務を行います。



《刊行計画》

市制40周年である本年度に「新編知立市史4 資料編近世Ⅰ」を刊行の予定です。これは、池鯉鮒宿本陣御宿帳を翻刻（ほんこく）（昔のくずし字を現代字に改める）するものです。

この池鯉鮒宿御宿帳は、昭和40年に県の民俗文化財に指定されたもので、記念すべき第一巻としてふさわしいものといえます。

その後、原始・古代・中世、さらに近世Ⅱ、近代・現代、民俗、自然と資料編の刊行が続き、その集大成として通史編二冊をもって一応の刊行終了とします。（平成30年度予定）

また、写真・図版が豊富でわかりやすい子供向けのジュニア版、市史全編およびデータ資料を収め検索機能を充実させたデジタル版も予定されています。

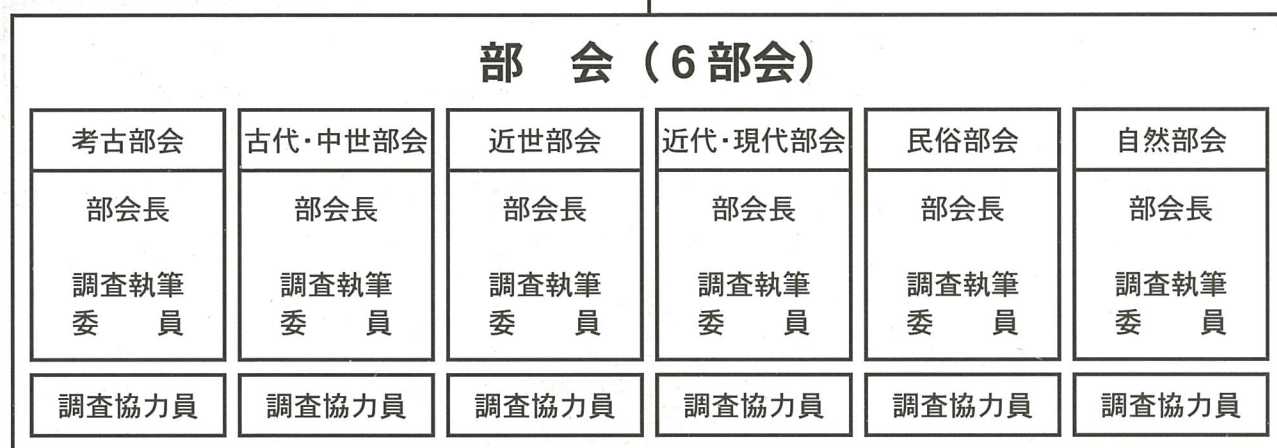
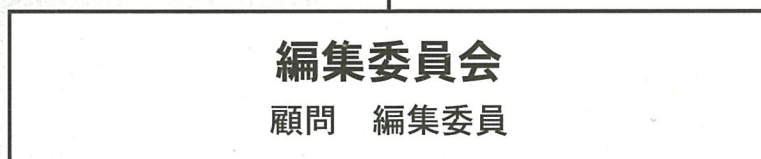
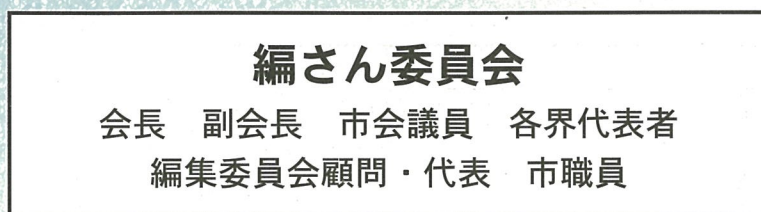
資料編というのは、それぞれの分野の調査資料を収めた通史編の基となるもので、これがなければ通史編は書けません。民俗は、先回の市史よりさらに精緻な調査を行い、知立まつりなどのDVDを付録にする予定です。自然編は、気象環境・地形地質・動植物について、当市にとって初めての本格的な調査が行われます。

また、年に二回市史だよりを広報に折り込み、調査報告をするとともに、講演会なども行っていきたいと考えています。

名称	番号	内容
通史編	1	原始～近世
”	2	近代・現代
資料編	3	原始・古代・中世
”	4	近世Ⅰ
”	5	近世Ⅱ
”	6	近代・現代
”	7	民俗 まつりDVD付
”	8	自然



## 編さん組織図



編集委員会メンバー

前列左より：顧問 新行紀一・代表 西宮秀紀（古代・中世）・大和田道雄（自然）  
後列左より：池内 敏（近世）・鬼頭秀明（民俗）・土屋武志（近代・現代）・清水正明（考古）  
（敬称略）



## 知立市史編さん体制一覽表

平成22年9月1日現在  
敬称略・執筆委員、協力員は50音順

◎市史編さん委員会			○近世部会		
会 長	林 郁夫	市 長	部 会 長	池内 敏	名古屋大学教授
副 会 長	清水 雅美	副市長	調査執筆委員	堀江登志実	岡崎市美術博物館学芸員
副 会 長	石原 克己	教育長	調査協力員	酒井 雅代	名古屋大学大学院生
委 員	坂田 修	市議会議長	○近・現代部会		
委 員	山崎りょうじ	市議会企画文教委員長	部 会 長	土屋 武志	愛知教育大学教授
委 員	竹内 博之	教育委員代表	調査執筆委員	宇佐見正史	岐阜経済大学教授
委 員	藤井かなる	文化財保護委員会代表		伴野 泰弘	名古屋文理大学短期大学部教授
委 員	加藤 恵一	小中学校長会代表		真島 聖子	愛知教育大学講師
委 員	高須 昭宜	文化協会代表		山田 孝	刈谷市文化財保護審議会会長
委 員	新美 文二	商工会代表	調査協力員	杉浦 卓次	知立市立東小学校教諭
委 員	鈴木 徳二	区長会代表		永田 孝夫	愛知大学准教授
委 員	新行 紀一	編集委員会顧問		渡邊 美幸	知立市立東小学校教諭
委 員	西宮 秀紀	編集委員会代表	○民俗部会		
委 員	竹本 有基	市企画部長	部 会 長	鬼頭 秀明	中京大学講師
委 員	林 勝則	市総務部長	調査執筆委員	神谷 幸夫	日本民俗学会会員
委 員	近藤 鈴俊	市教育部長		服部 誠	日本民俗学会会員
◎編集委員会			調査協力員	天野 卓哉	高浜市こども未来部文化スポーツグループ主査
顧 問	新行 紀一	愛知教育大学名誉教授		大野 麻子	蟹江町歴史民俗資料館学芸員
代 表	西宮 秀紀	愛知教育大学教授		小早川道子	県史編さん室嘱託
委 員	清水 正明	知立市文化財保護委員	○自然部会		
委 員	池内 敏	名古屋大学教授	部 会 長	大和田道雄	愛知教育大学名誉教授
委 員	土屋 武志	愛知教育大学教授	調査執筆委員	大和田春樹	環境学博士・日本地理学会 会員・日本気象学会会員
委 員	鬼頭 秀明	中京大学講師		小鹿 亨	安城市立今池小学校教諭
委 員	大和田道雄	愛知教育大学名誉教授		堀 和明	名城大学准教授
◎部 会				堀田 喜久	愛知植物の会顧問
○考古部会			調査協力員	阿部 朋弥	名古屋大学大学院生
部 会 長	清水 正明	知立市文化財保護委員		大和田由雅	名古屋市立植田小学校教諭
調査協力員	伊藤 利和	日本考古学協会会員		緒方 清人	日本蜘蛛学会会員
	神谷真佐子	安城市埋蔵文化財研究会研究員		小鹿 登美	日本哺乳類学会会員・ 高校非常勤講師
	神取 龍生	幸田町教育委員会生涯学習課主事		恩田佳代子	豊田市史調査協力員
	矢田 直幸	日本考古学協会会員		金田 吉高	西三河野生生物研究会幹事
○古代・中世部会				近藤洋一朗	西三河野生生物研究会会員
部 会 長	西宮 秀紀	愛知教育大学教授		山崎 隆弘	三河昆虫研究会副会長
調査執筆委員	水野 智之	高千穂大学准教授			



## 本年度刊行予定

『資料編近世I』

池鯉鮒宿本陣御宿帳』とは

知立は、江戸時代に現在の山・本・中・西町の旧東海道沿いに宿場町が形成されており、公称として「池鯉鮒」の字が使われていました。

本陣とは、参勤交代の大名や貴人などが宿泊する際に利用する休泊施設のこと、旅籠屋はたごと異なり一般人は利用できず、門・玄関・書院を設けることができませんでした。本陣の主人はもともと旧家で、宿役人・問屋役を兼ねる者も多く苗字帯刀みょうじたいとうを許される特権階級でした。池鯉鮒宿では、代々永田清兵衛が務めています。池鯉鮒宿本陣御宿帳は、寛文2年(1662)から明和9年(1772)までの記録(途中欠けている部分もあります)で、年月日・利用者名・利用状況(泊、休など)・金額が記入され、年間の収入金額も年度末に記載されています。江戸時代の早い時期のおよそ百年間の本陣の記録が残されているというのは大変貴重です。また本陣経営の様子や利用状況を長期に見ることができるということでも興味深い史料だといえます。

また、宿帳に記載されている利用者名は官職名となっており、名前を調べて利用年月日とともに巻末にまとめました。

池鯉鮒宿本陣御宿帳が多くの方々に利用され、近世史研究に貢献できることを願ってやみません。

## 活動記録

### ◎編さん委員会

第1回会議 6月25日

### ◎編集委員会

第1回会議 1月24日・第2回会議 2月20日・

第3回会議 4月2日・第4回会議 6月25日・8月25日

第5回会議・第6回会議 10月3日

### ◎部会

□考古部会 第1回会議 5月16日・市内遺跡巡り 6月20日・第2回会議 8月29日

□古代・中世部会 第1回会議 8月25日・第2回会議 10月23日 予定

□近代・現代部会 第1回会議 5月22日・第2回会議 7月3日・行政資料下見 8月5日・第3回会議 8月28日・市内史跡巡り 10月3日・第4回会議 10月24日 予定

□自然部会 第1回会議 6月20日・第2回会議 8月7日・第3回会議 10月3日

□民俗部会 第1回会議 8月26日・第2回会議 9月21日



### 市史編さん事業にご理解・ご協力を

市史編さんといっても、一体何をどうするのか、全くイメージできないという方が多いかと思えます。ごく大雑把に言えば、知立市の歴史・民俗・自然について、それぞれ専門分野の先生方により、調査し、わかりえたことをまとめて本にする事業です。

調査というのは、それぞれの分野で異なります。歴史分野では現存する史料を探し、分類整理し、昔のくずし字は解読します。民俗では、多くの方の体験談をまとめたり、まつりや地域の年中行事などについて調査します。自然分野では、気象観測を行いデータを採ります。また、動植物を調査し、撮影したり標本を採取するとともに、わなを仕掛けたりすることもあります。

このように、多くの人と時間が必要であり、市域の方々の協力なしには、成し得ない事業でもあります。

どうか、市史編さん事業につきまして市民の皆様にあたたいご支援・ご協力をお願いいたします。

### 昔のものや写真は残っていませんか

古文書は残ってはいませんか。また古い地図や写真、役場関係の書類などはありませんか。戦時中のもはや村の行事に関するものなどは残っていませんか。

個人的に手放したくない場合は、データをとお返し致します。

市史編さん事業の大きな使命は市史を刊行することともに、資料を調査し後世に伝えていくことです。本が出たら、それでおしまいということではありません。集めた資料を保存管理していくことも大きな仕事です。皆様のところに眠っている資料も市のかげがえのない財産であることをご理解いただければ幸いです。

### お問い合わせ

知立市教育委員会生涯学習課

(市史編さん事務局)

〒四七二-〇〇五三

知立市南新地二丁目三番地三

歴史民俗資料館二階

TEL 〇五六六-八三一六七八九

FAX 〇五六六-八三一六六七五

E-Mail [siryokan@city.chiryu.lg.jp](mailto:siryokan@city.chiryu.lg.jp)

新編知立市史だより第一号

平成22年10月16日発行

発行 知立市教育委員会生涯学習課

(市史編さん事務局)